

福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科（通信教育）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
精神・発達障害者の理解と共働	2	1	スクーリング科目	青木 聖久
<b>【講義目的】</b>				
<p>2013年の障害者雇用促進法の改正により、2018年から精神障害者が、法定雇用率の算定基礎に加わることになった。したがって、段階的に企業の法定雇用率が上昇することから、精神障害者の雇用が喫緊の課題となっている。その一方で、すでに、2013年度の新規の就職件数は、精神障害者が全障害者のなかにおいて、38%を占めている。とはいえ、精神障害者の職場定着率は、きわめて厳しい状況にある。なお、2011年の障害者基本法の改正により、発達障害者が精神障害者に含まれることになった。よって、精神障害者の範囲には、発達障害者、さらには、高次脳機能障害者も含んでいる。他方、近年うつ病等を患いながら、勤務を続ける者や、職場復帰を目指す者も多い。</p> <p>これらのことから、職場で精神・発達障害者と働くことについて、知識や技術を持つことは、重要なこととなる。また、職場管理の立場の者にとっては、法定雇用という側面のみならず、精神疾患を生み出さない会社づくり、という点からも意義深い。</p> <p>以上のことをふまえ、本講義では、各々の学生が主体的参加のもと、まず、テーマについて考え、事前レポートを提出することから始める。そして、グループワークで深めることによって、精神・発達障害者のニーズ把握、共働のあり方等をはかる。また、精神・発達障害を持っている者の生の声を聴く機会も設ける。</p> <p>これらを通して、本講では、職場において精神・発達障害者と共に働くことの意味と意義、さらには、実践的な方法等について学ぶことを目的とする。</p>				
精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行う。				
<b>到達目標</b>				
<p>①精神・発達障害者の生きづらさや働くことの意味や意義について説明できる。</p> <p>②職場が求めるニーズや人々が持つ多様性を理解しつつ、相互にコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>③各々の立場性や尊厳を尊重し、行動することができる。</p>				
<b>講義の構成</b>				
<b>【講義の流れ】</b>				
<p>授業は、演習形式を多用しながら展開する。まず、事前課題を通して、参加者相互の問題意識を確認する。そのうえで、精神・発達障害者の生きづらさの理解、働くことの意味や意義について講義をする。さらに、これらのことを、グループワーク等で深める。一方で、精神・発達障害者の話を通して追体験すると共に、実際的な精神・発達障害者との共働の仕方について考える。</p> <p>他方、障害者雇用の制度的な構造や、働き方の多様性について知る。また、精神・発達障害者が働く職場の理解についても、思いを巡らす。それらを通して、①精神・発達障害者ができること、②職場側ができること、③両者をつなぐ支援者の機能と役割、④社会が知っておくべきこと、取り組むべきことについて学ぶことが本科目の目的である。</p>				
<b>【講義のポイント】</b>				
<p>まずは、精神・発達障害者が、働くという場面において、いかなる支障と、一方で強みがあるのかを知る。また、働くということの多様性についても知る。それらを通して、様々な配慮や工夫をしながらも、人が働くことの意味とはどのようなものかについて考える。</p> <p>そして、具体的な働くを実現するにあたっては、どのような方法を講ずれば、精神・発達障害者と雇用をする側（以下、両者）にとって、幸せなのか、を追求する。特に、両者が、妥協するのではなく、互いの強みを発揮した循環的な関係性について思考する。</p>				
<b>事前課題</b>				
「精神・発達障害者と共に働く意義と課題について」A4用紙1枚程度（字数は問わない）にまとめて提出すること。（詳細は【nfu.jp】－【リンク】にある募集要項を参照のこと）				
<b>成績評価の方法</b>				
事前課題の提出、出席、科目修了試験の3つの総合評価を行う。				
<b>参考図書</b>				
授業の中で適宜紹介する。				
<b>会場・日程</b>				
名古屋（ウインクあいち）：2020年1月11日（土）－1月12日（日）				